

P-291 婦人科癌に対する抗 β -Casein モノクローナル抗体の反応性およびその抗原決定基の検討

札幌医大

鈴木孝浩、小泉基生、工藤隆一

【目的】我々はこれまで抗子宮頸部腺癌モノクローナル抗体 1C5 及び抗 β -Casein ポリクローナル抗体の婦人科癌、殊に子宮頸部腺癌に対する反応性、および β -Casein と 1C5 認識抗原が共通抗原性を示す事を発表してきた。今回我々は腫瘍組織抗原と β -Casein の共通抗原性およびその臨床的有用性を検討するため、新たに抗 β -Casein モノクローナル抗体を作製し、免疫学的反応性およびその抗原決定基について検討した。

【方法】 β -Casein を Balb/c mouse に毎週計 5 回免疫後、免疫脾細胞と骨髓腫細胞株 NS-1 を細胞融合し、EIA で Screening の結果抗 β -Casein モノクローナル抗体産生細胞株を作製した。また、抗 β -Casein 抗体の抗原決定基を検討するため、蛋白分解酵素にて β -Casein を分解し Western-Blotting にて検索した。

【成績】モノクローナル抗体を 4 種類作製することができた。これらの抗原決定基について検討したところ、3 種類は β -Casein アミノ酸配列 140-209 の部分、もう一つは 1-139 に抗原決定基があることが考えられた。それらの組織標本における免疫染色では、子宮頸部腺癌、扁平上皮癌、子宮体癌で染色性が異なり、各々が興味深い特異性を示すことがわかった。

【結論】4 種類の抗 β -Casein モノクローナル抗体は婦人科癌の種類によりそれぞれ特異性が異なることがわかった。また、その抗原決定基は抗体の種類によってそれぞれ異なると考えられる。今後この抗体の反応性およびその抗原決定基を検索することにより、婦人科癌の診断および癌抗原決定基解明につながると考えられる。

P-292 子宮筋腫及び子宮肉腫の腫瘍化における p53, Bcl-2 の関与

信州大

翟 雅麗、小林弥生子、森 篤、二階堂敏雄、藤井信吾

【目的】近年、腫瘍抑制遺伝子 p53 はアポトーシスを誘導し、Bcl-2 はアポトーシスを抑制することが明らかになってきた。p53 と Bcl-2 の異常はアポトーシスを抑制することによって腫瘍の悪性化に関与すると考えられる。今回我々は、臨床的に良性腫瘍として存在する子宮筋腫及び悪性腫瘍である子宮肉腫の腫瘍性格を明らかにするために、p53 と Bcl-2 の発現及び細胞増殖期に発現する抗原 ki-67 の発現様式の相関について比較検討した。【方法】40 例の子宮筋腫 (usual leiomyoma 18 例、cellular leiomyoma 17 例、bizarre leiomyoma 2 例、uncertain malignant potential leiomyoma 3 例) 及び 11 例の子宮平滑筋肉腫のホルマリン固定パラフィン包埋切片を用い、p53、Bcl-2、ki-67 抗体を用い、ABC 法で免疫組織染色を行った。【成績】子宮筋腫においては、筋腫のタイプに拘わらず全例に Bcl-2 は陽性であった。p53 は 40 例中 15 例で弱陽性となったが、これも筋腫のタイプとの相関性はみられなかった。ki-67 陽性細胞数と筋腫のタイプの相関性も見いだせなかった。一方子宮肉腫は、Bcl-2 陽性 (5/11 例)、Bcl-2 陰性 (6/11 例) であった。ki-67 陽性細胞数は筋腫に比較して有意に高かった。また、p53 陽性細胞と ki-67 陽性細胞の出現頻度は Bcl-2 陰性群に有意に高かった。【結論】子宮筋腫に Bcl-2 が全例で発現し増殖能が肉腫より低いことは、Bcl-2 が子宮筋腫の無秩序な増殖の抑制に関与している可能性が考えられた。一方子宮肉腫では、Bcl-2 陰性群は p53 の異常を伴い増殖能が高く、これと比較して Bcl-2 陽性群では p53 の異常が少なく増殖能はやや低いと考えられた。以上より、p53 と Bcl-2 の異常と子宮筋の腫瘍化の関連性をさらに検討する必要性が示唆された。